

=====
本メールマガジン[NEE Mail Magazine]は、経済教育ネットワークより会員の
皆様にお送りしております。
=====



◆ NEE Mail Magazine 130号 ◆

-----2019-11-1◆◇

霜月、11月です。

暦の上では、11月の初旬には立冬をむかえます。地域にもよりますが、本州では木枯らしが吹き、体感温度が一番寒く感じる季節です。

学校では、大学は学園祭の季節ですが、中学高校は一番行事がなく勉学に励めるはずの季節となります。また、経済の授業が本格化する時期でもあります。

そんな今月もネットワークの活動を報告するとともに、授業に役立つ情報を提供いたします。

【今月の内容】

【1】最新活動報告

19年9月末から10月の活動やニュースを報告します。

【2】定例部会のご案内・情報紹介

部会の案内、関連団体の活動、ネットワークに関連する情報などを紹介します。

【3】授業のヒント「生徒は何を疑問に思っているか」

【イベントの案内】 東京と沖縄で「先生のための経済教室」を開催します

■「先生のための冬休み経済教室」(東京)を開催します。

今回の経済教室は、「変わる入試と授業の改善」をテーマとしたシンポジウムです。

日時:2019年12月26日(木) 13時00分~17時00分

場所:慶應義塾大学三田キャンパス東館8階東館ホール

内容:基調報告に、大倉泰裕先生(千葉県立松戸向陽高等学校、元文科省教科調査官)、それをうけて、李洪俊先生(大阪市立大和川中学校)、杉浦光紀先生(都立井草高等学校)、金子幹夫先生(神奈川県立三浦初声高等学校)から現場での取組みを報告いただき、討論を行う予定です。

詳細は以下をご覧ください。

<http://www.econedu.net/announcement/keizaikyousitu/2019%20keizaikyoushitu/20191226FuyukeizaiR.pdf>

■「先生のための経済教室」(沖縄)を開催します。

日時:2020年1月18日(土)

場所:沖縄県立図書館ビジネスルーム

内容:宮崎美喜男先生(都立国際高等学校)、河原和之先生(立命館大学他)、

篠原総一代表の講演があります。

【 1 】最新活動報告

■大阪部会(No.65)を開催しました。

日時:2019年9月28日(土) 18時00分～20時05分

場所:同志社大学 大阪サテライト

内容の概略:出席者 16名

(1)岡部ちはる氏(東京証券取引所)から、8月に開催された「先生のための夏休み経済教室」の参加状況や、アンケート結果などが報告されました。

(2)篠原総一代表(同志社大学名誉教授)から、最近および今後の経済教育ネットワークの活動が報告されました。

(3)奥田修一郎先生(大阪教育大学)から、「労働問題に着目した中学校公民的分野の授業開発ー新しい働き方を実現するための手がかりにー」と題する授業案が報告されました。

奥田先生は、中学校公民分野で労働の扱いが不足しており、生活の基盤である労働について十分に学ばれていないとして、男女賃金格差の問題、外国人労働者の受け入れ問題など連続的に授業案を発表してきました。今回はその続きで、日本の長時間労働についての授業案の報告と検討が行われました。

(4)李洪俊先生(大阪市立大和川中学校)から、「全国公立高校入試問題(2019年の実施)について」として、入試問題を指導要領のポイントに沿って分析、評価した報告がありました。

今回の分析の結果、ますます資料を読み取らせる問題が増えていること、読ませる文章量が多くなっていること、公民だけでなく地理や歴史にもまたがった問題が増えていることなどが指摘されました。

(5)丹松美代志氏(大阪学びの会代表)から、著書『教えるから学ぶへ～協同的学びとの出会い～』(晃洋書房)の紹介がされ、「深い学びにつながる探求型学習とは」と題するシンポジウムの案内が配布されました。

また、飯島知明氏(島本町立第一中学校)から「解説合戦&討論」の活動実績をまとめた資料が配付されました。

詳細は以下をご覧ください。

<http://www.econ-edu.net/meeting/osaka/Osaka65report.pdf>

■札幌部会(No.21)を開催しました。

日時:2019年10月5日(土) 14時30分～17時00分

場所:キャリアバンク セミナールーム

内容の概略：参加者 9 名

(1)「春の経済教室 in 札幌」についての検討がおこなわれました。

第1候補を3月21日(土)として、テーマは、北海道のどこの地域にも関係する「人口減少問題」をテーマにしたいとの要望が出されました。企画内容に関しては今後検討することとなりました。

(2)山崎辰也先生(北見北斗高等学校)から実践報告「RESAS(地域経済分析システム)を活用したまちづくり学習」がありました。

山崎先生からは、RESAS(地域経済分析システム)を活用したまちづくり学習について、PCによる解説、演示を加えながらの実践報告と検討が行われました。討論では、授業の流れの再構成の提案やSDGsとの関わりについてのアドバイスがあり、春の経済教室で発表ができるようにさらに検討を加えることとなりました。

(3)川瀬雅之先生(札幌市立北翔養護学校)より、「他の教師を巻き込んだ小論文指導」の実践についての報告がありました。

川瀬先生が、札幌旭丘高校進路指導部長のときに実践した、他の教員を巻き込んだ小論文指導、読書指導のやりかた、論文展開の指導法などについての報告です。

(4)野間敏克先生(同志社大学)より、大阪部会で李先生の資料、川瀬先生より、文科省『中等教育資料』の学習指導の工夫改善の資料、読売新聞の「経済学×現代」の記事が配布されました。

詳細は以下をご覧ください。

<http://www.econ-edu.net/meeting/Sapporo/Sapporo021reportR.pdf>

■東京部会(No.112)を開催しました。

日時：2019年10月17日(木) 19時00分～21時15分

場所：慶應義塾大学三田キャンパス研究室棟 446 会議室

(1)鈴木深氏(東京証券取引所)より、12月30日(大納会の日)に開催される冬休み経済セミナーの案内がありました。また、来夏の夏休み経済教室の大阪会場が大阪取引所セミナー室になることが報告されました。

(2)12月の拡大東京部会の在り方に関して検討が行われました。

「先生のための冬の経済教室」という形で広く参加者を呼びかけるイベントとすることになり、「新テストが要請する中高の授業改善」として、出席者など詳細は10月中に詰めてゆくことになりました。

(3)部会報告などの情報提供があった。

篠原代表より大阪部会の報告が、杉田孝之先生(千葉県立津田沼高校)より札

幌部会の報告がありました。新企画として行われる「経済学寺子屋」の案内がありました。第1回は10月26日(土)に実施予定。

(4)埜枝里子先生(都立農業高校)より実践報告がありました。

1年生「現代社会」での市場の失敗の3時間配当の1時間を使った公共財に関する授業で、公共財のシミュレーションゲーム(農村での用水路の修繕整備費用を出すか出さないかの意思決定ゲーム)を行わせて、フリーライダー出現の可能性とそれにどう対処するかを考えさせる授業です。

生徒は、授業にしっかり取り組んでいた半面、フリーライダー出現への対応に関しては、公共財・サービスの政府による供給には向かわずに、精神論に傾斜する生徒がでることが課題であると報告がありました。

検討では、埜実践のモデルの有効性は高いが、モデルを使う場合は、どの場面でどう使えるかという条件を考える事、そのためにはモデルの前提条件を確認することが大切であることが篠原代表から指摘がありました。

(5)新井から、18年度新テストの試行問題「現代社会」で出題された、アダム＝スミス『国富論』を高校生が訳したとされている部分を英文の原文で読ませて、問題を解かせるという内容のプリント、生徒に「経済で不思議だ、わからないと思うもの」をあげさせて、それに新井が回答したプリントの二種が紹介されました。

詳細は以下をご覧ください。

<http://www.econ-edu.net/meeting/tokyo/tokyo112report.pdf>

【2】定例部会のご案内・情報紹介

<定例部会のお知らせです。(開催順)>

■東京部会(No.113)を開催します

日時:2019年11月14日(木) 19:00~21:00

場所:慶應義塾大学三田キャンパス研究室棟 446 会議室

■大阪部会(No.66)を開催します

日時:2019年12月7日(土) 18時00分~20時00分

場所:同志社大学 大阪サテライト

大阪市北区梅田 1-12-17 梅田スクエアビルディング 17階

■札幌部会は春の経済教室として開催予定

日時:2020年3月21日(土) 14時30分~17時00分

場所：キャリアバンク セミナールーム（予定）

札幌市中央区北 5 条西 5 丁目 7 Sapporo55 ビル 5 階

【 3 】授業のヒント 「生徒は何を疑問に思っているか」

「問いをたてる」という言葉があります。

生徒が学習をすすめる時に、問題意識をもたせ、それを深める手がかりになるのが、この問いを立てるということです。

今回は、私たち教員が、経済の学習を始める前に、どんな問いがたてられるか、それを生徒から引き出すことをやってみませんかというススメです。

(1) 生徒の疑問を集めてみよう

経済に関して、身近な疑問というのは回答が難しいものが多い、ということの本欄でも取り上げています。（2018 年 7 月号「身近な事例には要注意」）

そうは言っても、経済の学習をはじめの際して、生徒が何を疑問に思っているかを知っておくことは悪いことではないはずです。

いやでもやらなければいけないことを教えるのが教育だとしても、生徒が何を知りたいのかをリサーチしておくのは決して間違いではないでしょう。

生徒に「日常のなかで不思議だと思う経済に関することがら」をアンケートでとってみたらどうでしょう。それが「問いをたてる」ヒントになるかもしれません。

(2) 大学生が持つ疑問

本当は中高生が持つ疑問をここで提示できればよいのですが、筆者が今教えているのは、大学生と高校生。まず、社会科の教員志望の大学生の疑問からいくつかを紹介します。

- ・同じコーラでもお店によって値段が変わるのはなぜ。
- ・お金がお金を生み出すしくみがわからない。
- ・全員がお金持ちになることは可能か。
- ・映画などのレディース・デイがあるのはなぜ。
- ・タクシーの初乗りが安くなったのはなぜ。
- ・なぜブラックサンダーは売れているのか。
- ・ポイントがお金と同じ価値でもちいられるのはなぜ。
- ・キャッシュバックの仕組み。
- ・キャッシュレスをどうしてそんなに促進しなければいけないのか。
- ・銀行やコンビニ、航空会社など一つの分野でサービスの内容がそれほどかわらないのに、複数の会社が存在していること。
- ・為替の仕組みがわからない。
- ・お金を発行し過ぎると大変なことはわかるが、秘密裏にやればそこまで影響がないのでは。

- ・軽減税率の意味。
- ・アルバイト時給は何によってきまっているのか。
- ・最低賃金は、その地で生きていけるものなのか。
- ・需要曲線や供給曲線がなぜ直線でなく曲線なのか。高校ではだれも答えてくれなかった。
- ・需要も供給も均衡価格も見えないのに、見えないもので成り立っているから本当に正しいのか不安。
- ・ビュッフェでとれだけ食べても料金が変わらないこと。
- ・無料というものが多し、それにみんなが群がっていること。
- ・日本は借金大国なのに、倒産、破産しないこと。

20 近くあげてしまいましたが、素朴な疑問から、かなりレベルの高いものまで集まりました。中高で、経済の授業をきちんと受けた記憶がないという学生が多く、ここにあげた疑問の多くは中高生とも共有するものではないでしょうか。

(3) 素朴理論を大切に

素朴理論とは、日常生活の中で理論的に追求しないで直感や思い込みで回答してしまう内容を言います。

経済で言えば、山のジュースの値段などがとりあげられています。上の学生の疑問で言えば、最初のコーラの値段がそれにあたるでしょう。

多くの生徒の認識や疑問は、最初は素朴理論から始まるわけで、それを大切にして、集めたアンケート回答は生徒自身で探究させたり、仮説をたてて調べたりさせると本格的な学習になる可能性をもつと考えられます。

その時間がとれないのが、今の学校の現実ですが、先生方もこれらの問題を考えてみると、授業設計のヒントが得られるかもしれません。

(4) 高校生の疑問

最後に、経済の授業開始後にとった高校生の疑問を紹介しておきます。すでに経済の見方や考え方、基本的概念を紹介したこともあり、彼ら、彼女らの疑問は、経済や経済学そのものに関するかなり本格的な疑問が登場して、授業者としてはびっくりのものでした。

- ・価格はだれがきめているのか？
 - ・なぜ賃金はあがらないのか？
 - ・市場の崩壊はなぜ起こる？
 - ・経済学者は今の経済問題を解決できないのか？
 - ・誰かが操作しているわけではないのに、きちんと世の中がうごいているのはなぜ？
 - ・世界で使う通貨を統一したらどうなるか？
 - ・経済を数値化できるのは不思議だな。
 - ・経済人のような人間はまずいないのに、そんな存在を考えて良いことがあるのか？
- などです。

さて、皆さんだったら、これらの「問い」どうこたえますか。(新井)

【 4 】編集後記(みみずのたはこと)

「定年退職さぎ」と言われている編者ですが、今年、高校生に授業をするチャンスを与えられ、これまでの授業のストックを改めて棚卸しをしています。なかなか手強い生徒たちで、こちらは真剣勝負の気持ちです。大学生向けの講義も、若い先生たちとの勉強会などからの刺激をうけ、新ネタを入れたり、方法の改善を試みています。

そこで発見したこと。やはり学び問うことが大事ということでした。でも、これは暴走老人の「たはこと」ことなのかもしれないぞ、とささやくもう一人の自分も発見しています。(新井)

=====
登録に心当たりのない方、今後配信を希望されない方は下記会員ページより
お手続き下さい。

<http://www.econ-edu.net/aboutus/contact.html>



編集・発行 : 経済教育ネットワーク

————— (C) Network for Economic Education ◆◇